

第 62 回高知県献血推進協議会議事要旨

- 1 日 時 令和 8 年 3 月 17 日（火）18：30～20：00
- 2 場 所 高知県庁 2 階 第二応接室
- 3 出席者 高知県献血推進協議会委員 18 名（23 名中）
高知県赤十字血液センター 3 名
事務局（薬務衛生課） 3 名

4 議 題

- （1）高知県の血液事業の概要について
- （2）令和 8 年度高知県献血推進計画について

5 議事の経過の概要

議長の議事進行により、各議題について事務局及び高知県赤十字血液センターから説明があり、質疑等が行われた。

議題（1）報告事項「高知県の血液事業の概要について」

事務局及び高知県赤十字血液センターから、「高知県の血液事業の概要について」説明があった。

意見等

- ・委員より、若年層が献血に対して持つ「痛そう・怖い・時間が長い」といったネガティブなイメージを払拭できるよう、イベントなどでどう説明等しているのか質問があり、血液センターより、ヤングボランティアに対しては献血出前講座を開催し献血に対する不安を払拭できるような内容の説明をすることが、効果的であるとの回答があった。また、県からは、献血イベントにおいて効果的なメッセージを発信できるよう啓発内容を見直すとの回答があった。
- ・委員より、献血の不適合者に対するフォローなどはあるのか質問があり、血液センターから献血不適合者に対し再度献血してもらうため、献血ルームの紹介や献血バスの日程を案内する等、働きかけているとの回答があった。
- ・委員より、献血を推進するには、高知県民全体が健康であることも重要であり、健康増進の意識向上につながる啓発活動を行うべきとの意見があった。
- ・委員より、若年層の献血者を増やすため、自身は献血ができないが友人等を連れてくると特典がある等、献血バスやルームに足を運びやすくなるような取組みの提案があった。また、血液センターより、県内大学等の新歓の時期に合わせ、高知県学生献血クロス倶楽部の学生の勧誘を積極的に行うことを考えており、献血に参加する学生の輪を広げる取組みを進めていくとの説明があった。
- ・委員より、献血推進員はもとより、本協議会委員も各々が機会をとらえた積極的な献血の声かけ等、啓発活動に取り組んでいただきたいとの要望があった。

議題（２）協議事項「令和８年度高知県献血推進計画について」

事務局から、「令和８年度高知県献血推進計画について」説明があった。

意見等

- ・委員より、献血推進のためには、献血推進キャンペーン月間運動の実施、広報活動や先ほど説明のあったクロス倶楽部等献血推進組織等の育成等、これまでも計画で掲げてきた取組みをしっかりと進めていくことが重要であり、特に、月間運動については協議会として献血推進組織やボランティア団体と連携し、マスコミの協力も得ながら、取組みを強化する必要があるとの意見があった。また、血液センターよりイオンモールにて、クロス倶楽部主催で年に数回来客者への呼びかけや、自らも献血を行うなどの活動を行っており、マスコミにも取材等お願いしたいとの説明があった。
- ・委員より、一年間における「ラブラット」の登録率の状況について質問があり、血液センターから、正確なデータを示すことはできないが、中四国の中で岡山に次いで、登録率が高いとの回答があった。
- ・委員より、献血者数を増やすためには、ドナーの健康増進も重要であるため、そういったことも含め、献血の重要性を啓発し、献血可能な人口を増やすことにより、若い世代に対して献血の意義を伝えることにつながるのではないかという意見があった。
- ・委員より、血液は種類により保存期間が異なり、短いもの（血小板）は６日間しかもたないため、大量に献血いただいた場合でも需用がないタイミングでは、無駄になることがあることから、継続的で安定した献血が重要であるが、現在の啓発活動ではその重要性が十分に伝わっていないとの意見があった。

議決

以上の意見もふまえ、議長から、令和８年度高知県献血推進計画（案）について協議会として賛同してよいか協議があり、全会一致で賛同された。